

開発途上国の環境問題を題材とした中・高等学校向け 環境教育プログラムの開発

— JICA 青年海外協力隊の経験を生かして —

学校教育専攻 環境教育専修 2717

中西美帆

1. はじめに

持続可能な社会の実現をめざす環境教育において、開発途上国の環境問題に関する理解を培うことや、地球的規模の視点に立った価値観を育成することは重要である。青年海外協力隊経験者は、こうした教育課題に対応する上で有益な人材である。しかし、協力隊経験者自身が、帰国後に教育プログラムを開発している例はあまり見られない。

本研究では、筆者の経験を生かし、開発途上国の環境問題を題材とした環境教育プログラムの開発・実践を行うと共に、それを通して今後の協力隊員に対して、プログラム開発の視点から留意すべき点について、提案を行った。

2. プログラムの作成

筆者の青年海外協力隊の経験から、〈価値観の多様性と他者との共生〉〈衛生問題とまちづくり〉の2つのプログラムを作成した。

〈価値観の多様性と他者との共生〉

ねらい：① 自分の価値観に気づくとともに、価値観の多様性を理解する。② 異文化、異なる価値観や意見を持った他者とのかかわりの中で、共生していくためには、どのような能力、態度、姿勢が必要かを学ぶ。

〈衛生問題とまちづくり〉

ねらい：① タンザニアを例として、まちづくりへの参加の仕方を体験的に学ぶ。② 途上国支援のあり方や意味を学び、今後自分が、どのよ

うにかかわりを持っていけばよいか考えさせる。

3. 試行実践

〈価値観の多様性と他者との共生〉は、高等学校2年生5クラス、計185人を対象に、〈衛生問題とまちづくり〉は、高等学校2年生32人を対象に試行実践を行った。

4. 結果と考察

本研究で開発した〈価値観の多様性と他者との共生〉および〈衛生問題とまちづくり〉の2つのプログラムは、多少の改善や補足説明は必要なものの、実践後の行ったアンケートにおいて全ての項目に7割程度の達成率があることや、自由記述において、ねらいを満たす記述の多いことから、中・高等学校の学校教育において、利用することが可能であると言える。

今後の協力隊員への提案としては、今後JICAによる出前講座はもちろん、学校教育の現場において、体験談やゲストスピーカーとしての活躍が期待され、要望も高まっていることから、派遣前から課題意識を持ち、帰国後を見通した活動を行うことも必要でなのではないか。さらに、総合的な学習の時間などと結びつけ、ねらいを明確にしたプログラムの開発を行ったり、協力隊経験者の作成したプログラムのデータバンクを作成し、プログラムを改善していければ、より良い教育ができるのではないだろうか。

表1 プログラム〈価値観の多様性と他者との共生〉

学習内容・意図	学習活動
自分の価値観に気付く。	活動①：「タンザニアの価値観シート」
タンザニアの実状を知る。開発途上国に興味をもつ。	活動②：「スライドショーを視聴」
価値観や意見の多様性を知り、他者と共に考える。協調性を育てる。	活動③：「キーワードをランキング」
各グループの考えを共有する。	グループ発表
グループワークをふりかえる。	活動④：「ふりかえり」
価値観・意見の異なる人との共生に必要な姿勢や態度について考える。	活動⑤：話し合い
各グループの考えを共有する。	グループ発表
途上国の問題を自分の問題としてとらえる。	講義

滋賀大学大学院 教育学研究科論文集

第 9 号

目 次

原著論文

『源氏物語』英訳研究 ——「物の怪」はどのように伝えられたか——	末宗 悟子 (1)
情報安全教育を指向した情報科教育の内容構成に関する研究	細井 智美 (13)
『葉隠』にみる自己教育観に関する一考察	朱 玲莉 (21)
ポートフォリオを活用した社会科の学習評価 ——プロジェクト学習「日中戦争から日中理解へ」——	三輪 光彦 (31)
ことばの学びにおけるコミュニケーション ——身体性を手がかりに——	福富恵理奈 (43)
中学陸上競技選手における疾走能力の発達に関する研究	藏本 龍樹 (55)
高校野球選手の基礎的競技パフォーマンスに関する下肢筋パワーの検討	青木 宏樹 (63)
就学前期の軽度発達障害に関する心理学的評価と小学校での課題 ——幼児期後期における発達神経心理学的検査結果と入学後の行動——	永野 優子 (71)
学校運営を通して考える学校づくりに関する研究 ——教職員を対象とした意識調査をもとに——	福永かおる (83)
1950年代の島小学校教育実践における教師の同僚性に関する研究	國領 順子 (97)
学びのコミュニケーション過程における教師の指導性 ——長岡文雄の「しごと」実践の分析を中心として——	野瀬 準子 (107)
フランクルの教育論的考察 ——現代の子どもの「能動的な生」確立に向けての 実践の手がかりを求めて——	塚本 和代 (119)
青年期における障害児の自己効力に関する研究	澤 靖子 (131)
Arthur Rackham の挿絵研究 ——初期カラー印刷技術の影響について——	木村明日香 (143)
修士論文要旨集	(155)
2005年度 修士論文一覧表	(221)

滋賀大学大学院 教育学研究科

2006